おはようございます。（仮題）

本馬

注意事項

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

あらすじ

とある少年少女の転生物語。

ｆａｉｒｙｔａｉｌ原作沿い（途中から）

目次

第1話 …… 1

第1話

拝啓、前の世界の人たちへ
大好きでした。

それと同時に大っ嫌いでした。

特に関心はなかった。
だから、特に興味のない人間に対しては大した感情も持ち合わせてはいなかった。
彼女だけいれば俺は満たされるんだもん。

ちょっと依存してるかも。
でもいいじゃん。
結局俺ら死んじゃったんだし。
もう会わないんだし。

「神々の」
「遊びぃ（笑）」
「なんやねんそれ」
「え、知らねぇの？」
「人間界のネタなんて知らんわボケ」
「あー、神様がボケなんて言っていいの？口悪ーい」
「あれじゃね？逆に神様だから許される、的な？」
「おぅ、よお分かったな。その通りや（どやぁ）」

自分、上村史（うえむら　ふみ）は生まれて初めて（いや、なんかもう死んだけども）ドヤ顔をした神様、というものを見ました。

全く神々しくなんてねぇわ、コイツ。

ついさっき、とある事件に巻き込まれて死んだはずの自分ら二人は気付いたら真っ白な空間にいて、自らを神様と名乗る頭のかわいそうな人に遭遇。

「いや、頭のかわいそうなとかなんやねん、自分。俺は正真正銘神様やっちゅーの」

「そうらしいな、思考の自由という権利を与えてくれないみたいだし」

「その言い方なんとかならへんの・・・？」

神様（笑）とそんな話をしてたら、服をクイクイとレイに引っ張られた。

あ、ちなみにレイはイギリスとのハーフでフルネームは川瀬レイ（Ｒａｙ　Ｋａｗａｓｅ）

さらにちなみに、レイは私の可愛い彼氏である。

頭がちょっと緩いのが玉に瑕だが。

いや、ぶっちゃけそんなところも可愛い。
「ねー、どゆこと？」
「あのな、今私が頭んなかでこの目の前の神様（笑）を”頭のかわいそうな人”って思ったんだ。それをこの人は私の頭んなか覗いて何を考えてたかを当ててんの。」
「へー!!じゃあ本当に神様なんだね、そんな簡単にプライバシーの侵害するなんて！」
「・・・言い方やめやって。ちなみに惚気もちゃんと聞こえてたで。リア充め・・・」

【速報】神様がリア充を僻むｗｗｗ

「で、何なの。結局。」
「俺らって死んだよね？」
話がそれたため、軌道修正。
結局なんで自分らここにいるんだろう。
さっさと地獄でも天国でもやりゃあいいのに。

「あ、せや。
君らには転生してもらおか。」

さらっと言うな。

「理由を求む。」

私がそういうと、神様（笑）は軽い口調でこう言った。
「上（上司）のお遊びや」
「「は？」」
「や、な？俺も十分えらい神様なんやけど、いっちゃん上におる神様っちゅーのがいてな、その人すごい人なんやけど遊び心とか好奇心が旺盛で・・・」
「な？付き合ってくれへん？特典とかもつけられるで？」
うわー・・・神様（笑）が腰を折りそうなくらい下にでてる・・・。
なんか外回りの営業マンみたい・・・　↑
てか、正に神々の遊びじゃねーか（笑）

「ねー、転生ってどこに？」
　あ、確かに。
「フェアリーテイルっていうファンタジーの世界や」
「フェアリーテイル？」
　聞いた事のない言葉に私は聞き返した。
「あ、俺それ聞いた事あるよ。よっちんから前に漫画借りたことある。」
「漫画なのか？」
「せや。魔法を普通に使う世界で多くの人はギルドっちゅー、・・・まぁ一言でいうと依頼紹介所？みたいなとこに所属してはるんや。ほかにも……」
（中略）　↑
　そんな感じで、神様（笑）とレイからそのフェアリーテイルというものについて簡単に教えてもらった。
「・・・と、こんくらいやな。」
「大体わかった？」
「大体は把握したよ、どうもな」
「せや、神様のおかｇ「お前には言ってない」

そう言って、キノコを生やしそうな神様（笑）の頭をはたき、特典のことについて聞き出す。
「ずばり、なんか魔法を授けるっちゅー話や」
ざっくりすぎる。
けどまぁ・・・
「んー、じゃあ俺はなんでも操れる魔法がいーな」
「それやったら全界魔法やな。ちなみにこれは古代魔法の一つやで。実際にフェアリーテイルの世界に存在する魔法や。といっても使おてる人はもうおらへんけど」
「へーー！何それスゴイ!!」
「お前はどないするん？」
二人の話を聞きながらも考えてたのだが、全く思いつかずとりあえずレイに聞いてみると、
「えーと・・・あ、言霊とかは？」
「あーそういうのあるな。んじゃそれで。」
そういうと、神様（笑）は軽く驚いていた。
「・・・・・・自分ら、何やチートな魔法ばっか選ぶなぁ。

言霊（ワード）っちゅう魔法も全界魔法と同じや。ただ、どっちにも一つだけできないことがあるで。死者を蘇生させること。
まぁ、逆に言えばそれ以外はほぼなんでも出来るんやけど。」
「すげーな確かに。」
「チートだねー、あはは」
・・・無邪気に笑うレイが可愛いです。
思わず撫でたよ。今日も髪さらっさらですね、はい。
とかそんなことして和んでたら、
「惚気んなぁー」
「「え」」
そんな神様（クソ）の声が響いて、
急に視界が真っ暗に。

眠気に襲われた。

「いってらー」

夢の中で、神様（クソ野郎）の声が聞こえた気がした。